

弊社の事業承継

1. 必要・必然・最善

右掲は中小企業家同友会所属支部で事業承継について発表した際に使用したパワーポイントの表紙です。当時、コロナ禍が拡大する時で、「3蜜回避」が叫ばれてリモート化が進み、この時は会場に集まって行なう報告はギリギリのタイミングでした。何事も「必要、必然、最善」に起こると言われていますが、その後の活動はオンライン化になり、運営方針が変わったので、事業承継を公約化する最後のチャンスでした。

「なぜ、2025年なのか」という疑問があると思いますが、単純に創業30周年を迎える事、私が満76才で数え年で喜寿になる事でした。当時は、京都のお客様で経営指針書づくりを行ない、業務代行の契約が出来て、三男の道筋が見えてきたところでした。この背景から、6年後は大阪・関西万博もあり景気の良い環境になるだろうと推測したのです。事業承継の予定と言ってもキッチリと計画した訳ではなく、自らにプレッシャーをかけるものでした。

三男は8年前（'17年）に中小企業家同友会の青年部に入会して、同世代との交流の機会を得ており、一步ずつ自立への歩みを始め、さらに、京都のお客様の業務代行契約で責任が増え遅くなりつつあった時でした。一方、私は、高齢者の域になり、「うっかりミス」が増えて来たという状況で、体力的な課題もあって「現役」を引退する時期にもさしかかっていたので、少し先が長いですが絶好のタイミングだったのです。

2. 6年かけて

右掲は報告会で発表した課題です。既存ビジネスのベースを固め、次のビジネスモデルを構築する為に「トンでもない発想」でシステム事業へ進出と社員育成について課題を掲げ、私は「百歳現役」を目指して「サイクリックな生活」で「禅宗の僧侶」のような自給自足を目指すと掲げています。

まず、「自主的近代化と強靱な財務体質づくり」ですが、'20年に母が亡くなり実家を相続し、同友会の仲間に依頼してリノベーションを行ない、三男が別居しています。何とか費用も自前で賄えて、現状は財務状況も回復して来たところです。「心・観・学・術・体」のレベルでは、昨年、「AIの代理店」の話が飛び込んできて、AIは今後も無限に発展する領域なので三男の武器になると契約して、現状は

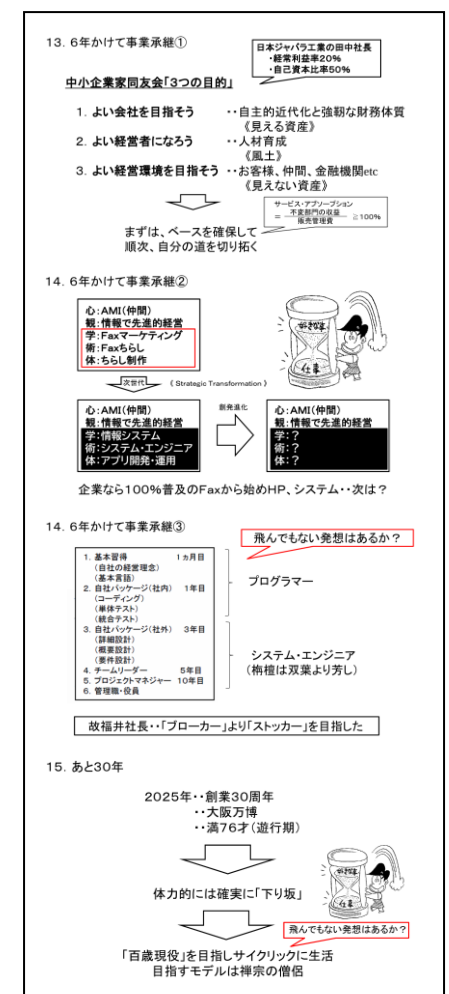
「学」・・・お客様の業務改善

「術」・・・無限に発展するAIを駆使する

「体」・・・自らAIを実践してテンプレート化する

ようになり、三男の「道筋」が明確になりつつあります。残る課題は社員を育成する環境づくりです。

私の「あと30年」は6年経過しましたが、「22年に大動脈瘤の手術を受け人工血管になる大手術を受け、予後は免疫力低下でアレルギーが出るなどの紆余曲折がありましたが、基本的な「運動」「食事」「社会」の3要素で回復しています。お陰で'21年に事務所のレイアウト変更から生まれたスペースに会議用テーブルを購入し、社内使用の他にコロナで活動出来なかった時期なので、土日、老人会に開放してお茶会を開催して喜ばれています。何か、禅宗の僧侶のスタイルを少し実現できているように実感しています。



3. 「キョーイク、キョーヨウ」

私自身は7月11日に満76才になるので、数え年で77才の喜寿に当たります。最近では満年齢で祝うことが多いそうですが、伝統的には数え年と言われています。「なぜ、喜寿？」という点では「喜」は右掲のように草書体では「七十七」と書くからと言われています。個人的な実感ですが、後期高齢者になってから、体力的な衰えを痛感するようになっていきます。例えば、少し体調を崩して2日休むと脚力が恐ろしい程「激減」しています。さらに、その脚力の回復に随分日数がかかるようになっていきます。

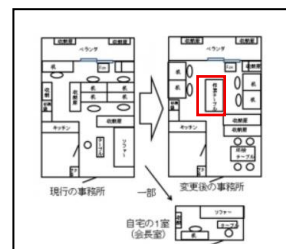


そんな背景の中、現役を引退すると誰しも「キョーイク」と「キョーヨウ」の2大課題に直面します。「キョーイク」は「今日行く」で、「キョーヨウ」は「今日用」という事です。

右掲は私の行動パターンです。ほぼ毎日、「喫茶店」→「事務所」→「昼食に帰宅」→「事務所」→「帰宅」のパターンでサイクリックに過ごしています。このようにして「今日行く」の課題を克服していますが、どうしても「今日用」の課題が残ります。「時間を流すな、迎え撃て」という主義でいますので、事務所にいる5時間の使い方が課題です。集中力の面でも、午前・午後の2時間半に分けているので随分助かっています。平日はメルマガや「独り言川柳」を書くようにしていますので、丁度良い時間で集中力を発揮しています。

5:30	起床
7:30	喫茶店でモーニング
8:30	出社
11:00	食事で退社
14:00	再度出社
17:30	退社
22:00	就寝

土日も同じパターンですが、右掲のように‘21年3月に事務所のレイアウト変更で出来た空間(□)を利用して、普段は4人掛けですが、両肘を広げれば6人掛けになる作業用テーブルを設置しており、普段は打ち合わせに使用していますが、土日の午後は6人掛けにして、さらにプラス2人が両端に座れるので、事務所のあるマンションの老人会に茶話会の会場として提供してトランプなどをして楽しく過ごしています。ささやかですが社会貢献になっているかと思っています。



4. 動中の工夫

私は‘95年に起業する際に禅語の本を読みました。禅宗は達磨大師を祖とし、庵を開いて自給自足の生活を行ない座禅や公案で教えを深めることに特長があると思っています。基本は「強く生きる」という事で、平素は自給自足の生活を行なうが有事の際には軍師的な働きをするというイメージを持っています。また、人生は理路整然とした事ばかりでなく、行動の中から学ぶという「動中の工夫、静中に勝ること百千億倍す」(白隠禅師)の言葉通りだと思っています。

しかし、多くの方は「思案」ばかりで結論を先送りして、その上、常識論に流され易いので保守的になり易い傾向があります。弊社は『「変わらない」なら「変われる」ようにしましょう』というスローガンに掲げています。つまり、「池の魚」から「川の魚」になれるように閉鎖空間から脱出するキッカケをつくるのが大切と考えています。「池の魚」のままでいると外部環境の変化に気づけずにチャンスを無くすことが多いのです。特に、中小零細企業は内部留保の面では危うい状況というケースが多く、リスクのある案件に尻込みしやすくなります。その為には、例え失敗しても補填できる積立金を持つようにしておくことがポイントです。少し意味合いが違いますが、コロナ対策資金の話があった時に、借りなくても済む状態のお客様から相談があったのですが、2億円を全て借りるというアドバイスをした結果、他社が大手企業の変化に追従できない際に参加する事が出来て安定基盤の一つを増やしたという事がありました。

つまり、「変われる」ためにはリスクに対応できる手元資金が必要です。「今日の食い扶持と明日への蓄え」という教えがありますが、食い扶持もムダを排除して蓄えとして残せるように日常生活を質素倹約で過ごすように心掛けています。「チリ積」と言いますが、油断すると心がバブルになりやすいので、少しでも「明日への蓄え」になるように引き締めています。